

## ご挨拶

このたびは全国各地から「みちのくCOMITIA1～創作旅行～」へご参加いただきまして誠にありがとうございます。

私どもADV企画はオールジャンル同人誌即売会「ADVENTURES」、オンリー即売会「Travellers～創作旅行～」ISM、コスプレイベント「コスプレGIG」を福島県を中心に開催して参りました。

その中の1つ、16年前から年1回開催していた創作オンリー同人誌即売会「Travellers～創作旅行～」が今回、「みちのくCOMITIA1～創作旅行～」となり、開催される運びとなりました。1992年のADVENTURES開始から、今年で23年。

開催したイベントは450回を超え、発行した即売会のカタログ総冊数は、今回で307冊目となります。

思えば東京コミティア中村代表の「コミティアやってみない？」という一言から今回の企画はスタートしました。

福島の地で開催するのであれば、白河・勿来という2つの「みちのく」の入口(関所)を有する福島県ならではのネーミングにしたい、イベントも「みちのく」を前面に出して楽しんでいただきたい!という思いから、「福島コミティア」ではなく「みちのくCOMITIA」となりました。

「みちのく」の語源は「道の奥」という説もあるとおり、この場所でコミティアを開催するとして参加者は集まって頂けるのか?人口33万人ほどの地方都市で開催することは出来るのか?

という不安がずっとありましたが、予想を超えるサークルさんにお集まりいただき、驚きと感謝の念で一杯です。

東北や福島県に来られるのが今回初めて、という方もおられると思います。

「3・11と福島県」を思うと複雑なお気持ちになる方もおられるかもしれません。

この会場も震災から1年半もの間避難所となり、3000人を超える被災者の命をつなぐ場所でした。しかし、ご覧の通り再びみんなが笑顔で会える場所になりました。

遠慮したり心苦しく思っていたことは少しもありません。

思っていたいたところで誰もしあわせになれません。

ひとりの被災地の者として、これが率直な今の気持ちです。

どうぞ思いっきりイベントを楽しんで笑いあってください。

なにぶん「みちのく」ですので大都会のように公共交通機関の便は良くありません。

しかしこの季節、緑豊かな「みちのく」ならではの雰囲気を感じていただければ幸いです。

イベント後にお時間があったら、ちょっとだけでも周辺の町、もしくは地元スーパー(ヨークベニマルやリオンモールやマルト)を歩いてみて下さい。きっと私たちには気付かない新しい発見があるはずです。地元ならではの土産も手に入ります。

そして福島県は北海道、岩手に続き3番目に広い県です。この郡山市は県の中心に位置します。折角の連休ですので会津地方や浜通り(郡山は中通りになります)にも足を延ばしてみたいかがでしょうか?

今回の「みちのくCOMITIA1～創作旅行～」が皆様にとって新たな東北発見の旅となり、奥が深い「道の奥」の入口となれたら幸いです。

# 東京コミティアからのごあいさつ

## みちのくコミティア〜創作旅行〜開催おめでとう！

こんにちは、もしくは初めまして。東京コミティア実行委員会代表の中村公彦です。

「みちのくコミティア」は新潟、名古屋、関西、北海道に続き、5番目に生まれた地方版コミティアになります。前身イベントとなる「トラベラーズ」には、2011年の震災の年から毎回参加して、東京コミティアの参加サークルの委託で販売してもらいました。そして「もっと何かできるのではないか」とADV企画主催の高雅勇有行さんと相談して「みちのくコミティア」が発足することになりました。

それぞれの地方版コミティアは、「コミティア」という名前を共有しています。独立したイベントです。「創作オンリー」というコンセプトの元に、相互に協力し合い、ゆるやかなネットワークを作っています。パンフレットの「ティアスマガジン」も地元スタッフが集まり、それぞれの個性が出ています。

とはいえ、初めての「コミティア」という名前を冠したイベントで、都市型のコミティアと地元密着のADV企画さんの手法の違いもあり、高雅さんはいろいろ苦労したことと思います。それでも今日の第1回に福島県内外からたくさんサークルさんに参加してもらい、素晴らしいスタートが切れて、大いに報われたのではないのでしょうか。

今回は東京コミティアからの会場内企画として、コミティア30周年記念作品集「コミティア30出クロニクル」全3集完結記念の地方コミティア連続トークショーを行います。司会は責任編集の私、中村公彦で、掲載作家で東北に縁のある小坂俊史さんと青木俊直さんのお二人をお招きしました(詳細11P)。ぜひ聴きにきてください。

この他、東京コミティアではおなじみの出張編集部に小学館・少年サンデー編集部が出席し、作家さんの持込みを受け付けます(詳細10P)。プロ編集者の意見・アドバイスが聞ける数少ない機会だと思いますので、どうぞチャレンジしてみてください。

また、同じく小学館が出版した東日本大震災の復興支援のコミックス「僕らの漫画」と「ヒーローズカムバック」を、東京コミティア委託コーナーにて販売しています。見本もありますので手に取ってご覧ください。

東京の人間として(つまり当事者でない立場で)、4年前の震災にどう触れた

らよいか今も悩んでいます。何も出来ないかもしれない。それでも躊躇して何もしないよりは、自分が出来ることがあるならやるべきだ、そう思いました。それが「みちのくでコミティアを」という原動力の一つとなりました。

ここでこのイベントの準備期間に、自分の気持ちに重ね合わせて大きな励みになった一冊の同人誌を紹介させていただきます。しまたけひと(サークル「相模屋」という作家が描いた「みちのくにみちつくる上巻」という本です。

青森から福島へ至る海岸沿いの700kmに及ぶ、復興目的に作られた自然遊歩道「みちのく潮風トレイル」。その行程を作者が自ら歩き、道中の様々な人々との触れ合いを通して、復興とは何かを考える作品です。

作者の体験はフィクションの3人の主人公に託され、物語は一步一步を踏みしめるように進んでゆきます。やむにやまれぬ気持ちでやってきた彼らが出会うのは、東北の人、文化、自然。そこには変わらない風景と変わってしまった人々の生活がありました。それでも温かい人情に触れ、旅を楽しみ一方で、時に整理のつかない感情が爆発する彼の地の人の慟哭に、主人公たちもそして私たち読者も、為す術なく涙を流します。それぞれの思いを背負って、彼らの「被災地を歩く意味」を探る旅は続いてゆきます。

ぜひこの本を東北の人たちにも読んで欲しくて、東京コミティア委託コーナーにて販売しています。現在は上巻のみですが、来年出版される下巻も必ず次の「みちのくコミティア」に持ってきます。

私たちは、いつも自分が出ることは何かを考えて、コミティアをやっています。「みちのくでコミティアを」、それが誰かの何かの役に立つのか、遠方の人間がそんなことを考えても仕方ないのかもしれない。

ただ、こうしたマンガや創作を思いっきり楽しむ1日があること。たくさんの人と此処に集い、その気持ちを共有し、確認しあえること。そんな1日が当たり前の日常であること。そういう場所を作りたくて「みちのくコミティア」は始まったと思っています。

最後になりましたが、今日という日に参加者それぞれに忘れられない出会いがあることを願っています。そしてその体験からまた新たに何かが生まれてくるのを、ワクワクしながら見続けていたいと思います。

2015年7月19日 東京コミティア実行委員会代表 中村公彦